

## 2023/24 シーズンにおけるインフルエンザワクチン等の接種に関する考え方

(2024年2月現在)

2024年2月13日

予防接種推進専門協議会

### ・インフルエンザが流行中です

今からでも2023/24シーズンにおけるインフルエンザワクチンの積極的な接種を強く推奨します

2023年5月に新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）が感染症法上の5類感染症になって以降、社会では人流が増加して、様々な感染症の流行がみられています。そうした中インフルエンザに関しては、昨年（2023年）9月頃より急激に増加し、現在も全国でA型インフルエンザを中心とした流行が続き、最近ではB型インフルエンザも増加傾向にあります<sup>1)</sup>。一方で2023/24シーズンのインフルエンザワクチンの供給は十分であり、これから接種する方がいらっしゃっても不足する心配はありません<sup>2)</sup>。インフルエンザの流行は通常冬季に見られますが、地域によっては春から夏にかけて流行がみられる場合もあり、特に新型コロナのパンデミックが落ち着いた2023/24シーズンは流行が始まった時期が早く、今後の流行状況の予測がつきにくい状態です。

今シーズンまだインフルエンザワクチンを受けていない方は、これからでも遅くはないので、インフルエンザワクチンの接種を受けることを強く推奨いたします。

### ・新型コロナウイルス感染症も増加傾向です

オミクロン変異株対応新型コロナワクチンの接種を強く推奨します

新型コロナウイルス感染症は、前述のとおり2023年5月に感染症法上の新型インフルエンザ等感染症（2類相当）から5類感染症となり、感染対策上の法的なしぼりが緩和されました。それに伴い社会活動の様々な制限がなくなり、5月以降新型コロナウイルス感染症の患者数の増加が認められましたが、8月をピークに減少してまいりました。しかしながら、12月頃から再び患者数は増加に転じ、現在その数は急速に増加しています<sup>3)</sup>。一方この間のオミクロン変異株対応新型コロナワクチンの接種率は低く、全体で20%程度、65歳以上の高齢者で60%程度となっている状況です<sup>4)</sup>。新型

コロナワクチンの接種により重症化や罹患後症状の発症を抑えることができますし、現在使用されているオミクロン変異株対応新型コロナワクチン（XBB.1.5 対応 1 価ワクチン）は現在流行中のオミクロン変異株に有効であるとされています<sup>5)</sup>。また現在新型コロナワクチンは特別臨時接種として全額公費負担として接種できますが、2024 年 4 月以降は、一部公費助成が受けられる定期接種の対象となる 65 歳以上の高齢者と 60 歳以上 64 歳以下の基礎疾患を持った方以外は、ワクチン接種は全額自己負担となる見込みです。

2023 年 9 月から開始されているオミクロン変異株対応新型コロナワクチンの接種をまだ受けていない方は、なるべく早く接種を受けることを強く推奨いたします。

#### ・高齢者の方に、肺炎球菌ワクチンの接種を強く推奨します

肺炎球菌ワクチンには 23 価莢膜多糖体ワクチン（PPSV23）と 13 価結合型ワクチン（PCV13）、15 価結合型ワクチン（PCV15）の 3 種類があり、65 歳以上の高齢者および 60 歳から 65 歳未満の日常生活が極度に制限される程度の基礎疾患を有する方を対象として実施されている定期接種には PPSV23 が使用されています。ただ高齢者を対象とした肺炎球菌ワクチン定期接種の実施率は低水準で経過しており、より一層の接種率向上が求められています<sup>6)</sup>。また 65 歳以上の 5 歳刻みの年齢の高齢者に対して経過措置として行われてきた定期接種は 2023 年度いっぱい終了となり、2024 年 4 月からは 65 歳の高齢者と 60 歳から 65 歳未満の日常生活が極度に制限される程度の基礎疾患を有する方のみが、公費助成が受けられる定期接種の対象となる予定です。現時点で肺炎球菌ワクチンの定期接種をまだ受けていない高齢者の方は、2023 年度中（2024 年 3 月末まで）に接種を受けることをお奨めします。

肺炎球菌は肺炎の主要な原因菌であり、菌血症などの重症感染症を起こしやすい細菌です。高齢者の方は肺炎球菌感染症が重症化するリスクが高いため、定期接種の対象年齢でなくても、未接種の方は接種することを強く推奨します。定期接種対象外の 65 歳以上の高齢者（過去に定期接種で PPSV23 を接種してから 5 年以上経過し、再接種に該当する高齢者を含む）および 65 歳未満の肺炎球菌感染症に罹患するリスクの高い方には PCV13 もしくは PCV15 を接種してから 8 週間以上の間隔をおいて PPSV23 を接種することが勧められます<sup>7,8)</sup>。

## 【文献】

- 1) 国立感染症研究所：IDWR 2024 年第 1 号<注目すべき感染症> インフルエンザ。  
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/flu-m/flu-idwrc/12477-idwrc-2401.html>
- 2) 厚生労働省令和 5 年 12 月 12 日事務連絡：季節性インフルエンザワクチンの定期の予防接種について（依頼）。  
<https://www.mhlw.go.jp/content/001177823.pdf>
- 3) 厚生労働省 Press Release（令和 6 年 2 月 2 日）：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の発生状況について。  
<https://www.mhlw.go.jp/content/001202247.pdf>
- 4) 第 56 回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会・第 79 回厚生科学審議会感染症部会 資料（2023 年 9 月 15 日）：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染状況及び取組状況等について。  
<https://www.mhlw.go.jp/content/10906000/001146454.pdf>
- 5) 国立感染症研究所：新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の変異株 BA.2.86 系統について(第 2 報)。  
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/2019-ncov/2551-cepr/12352-sars-cov-2-ba-2-86-2.html>
- 6) 第 22 回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会ワクチン評価に関する小委員会 資料（令和 5 年 12 月 1 日）：高齢者に対する肺炎球菌ワクチンについて。  
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001173696.pdf>
- 7) 日本呼吸器学会呼吸器ワクチン検討委員会/日本感染症学会ワクチン委員会・合同委員会：「65 歳以上の成人に対する肺炎球菌ワクチン接種に関する考え方（第 4 版）」（2023 年 3 月 24 日）  
[https://www.kansensho.or.jp/uploads/files/guidelines/o65haienV/o65haienV\\_230324.pdf](https://www.kansensho.or.jp/uploads/files/guidelines/o65haienV/o65haienV_230324.pdf)
- 8) 日本呼吸器学会呼吸器ワクチン検討委員会/日本感染症学会ワクチン委員会/日本ワクチン学会・合同委員会：「6 歳から 64 歳までのハイリスク者に対する肺炎球菌ワクチン接種の考え方（第 2 版）」（2023 年 9 月 11 日）  
[https://www.kansensho.or.jp/uploads/files/guidelines/64haienlinenashi\\_230913.pdf](https://www.kansensho.or.jp/uploads/files/guidelines/64haienlinenashi_230913.pdf)